

## 幼稚園の附屬設備について

馬場 定 一 譯

保母は裝飾に使ふ繪の選擇に就いては、多くの人がするやうに自分自身で選ぶよりも、子供等の興味と相談する方がよい。併し良き美術品ならば、子供等の興味も之に服従するから、用ひても差支ない。ラフフェルの「Madonna of the Chair」は多くの保母の經驗に由つて見るも、小さい子供等には、他の有名なマドンナよりも多く好かれる様である。お祈りの繪や、子供等がお祈を讀む事が出来るやうな繪は子供等の注意を惹きもし且つ之を保持する事が出来る。例へばストラットの「A Little Child Shall Lead them」の如きは子供等には驚くべき注意を惹くものである。繪が眞に象徴して居る處のものは到底子供等には理解する事は出来ないのではあるが、なほ繪は子供を畏敬させ、之を魅するものであつて、子供が繪を翻譯することに由つて見るも、彼等の註譯の示す如く、繪の精神が子供の小さい靈に觸れて居る事實の證言となるのである。

數年前、或る市の保母が數人組合つて、眞い繪を購入した。此の繪はあちらこちらと幼持廻されて、其度に何週間か相當の場所に置かれて子供を惹きつけたものである。此實驗は非常な成功であつて、子供は其各の繪に鋭き且つ不斷の興味を示して、またあるのだらうと其後を待つ程であつた。

スペース—通例壁と調和した色のバーラツプで表装せられたる枠——はお祈に使ふ枠にはめない繪を掛けるのに使用するがよい。是等の繪は勿論時々變へらるべきものである。

綱に布を懸けるやうに、黑板に渡した絲に繪を掛ける習慣には最も反對である。私の見た幼稚園では「Thirteen Mother Play」の繪が此方法で掛けてあつて、同じ室の他の黑板にも基督誕生の十二枚の繪が掛けてあつた。其効果は、實に美術的でないのみならず、少しも稱讚すべき所はない。同じ題目の十二

の異つた繪を同化しやうと力める結果子供の頭の中に起る錯雜を想像して見よ！單純化せよ！

單純化せよ！、小さい子供の心の發達の過程を記憶せよ！子供の狭い經驗を思ひ起して、子供を可哀想だと思ふがよい！こんな事を實際やつて居ると云へば誰でも驚くの外はないであろう。

説明の繪は注意深く選擇し且つ其の數は少い方が宜しい。幼稚園時代の子供にラ、ロールやコレツデオ其他二三の人の基督誕生の繪を見せる事はいゝ事ではない。一つの善い繪を選んで、それに満足せしめる方がいゝ。もつと大きくなつて、是等の澤山の繪が、色々の畫家の色々の心持を表はしたものであると云ふ事が理解の様になれば其時には、此様な種々のタイプの繪に觸れさせてもいゝが、今はほんの幼い年である事を忘れないで、子供等に盲目的な錯雜混亂は避けさせた方がいゝ。

幼い子供は、手に持つて見る事が出来、且つ他の子供にも渡して見せる事の出来る様な小さい繪を見る事が好きなものである。或る保母は、色々な題目を説明する繪を澤山持つて居て、右の方法で其中から子供が大變喜び且つ利益を受けさうな繪の寫本を

持つて居た。

幼稚園に動物を入れる事は唯比較的僅少な例が成功して居るのみである。場所柄として、室外保育に適したる氣候を持つた處にある幼稚園では斯かる動物を飼つて置く場所なり方法なりが容易く出来る。少數の例として、室に空場所の多い所では大きな籠を備付けて、栗鼠の様なものを入れて之を飼育する事も出来る。或る市では、數箇の幼稚園で、一群の動物を備へて居る處もある。夫を巡回動物と名付けて居る。此事は立派に満足を與へて居るが、多くの市内幼稚園では、其場所が狹隘である現状と、之を適當に飼育するのに不便である爲に、一般には其教育的價值も明かになつて居り、フレールも立派に之を擁護はして居るものゝ何れにしても、恁麼種類の事を企てる事は多少滑稽である。けれども子供に飼育の精神を働かせる様なものゝある事は極大切な事である。其爲に愛玩動物として金魚がよく代用せられる。是は幼稚園生活としては子供に飼はせ易いので、美しいのと、形が面白いのとの爲である。或る幼稚園では水族器を用ひてよく成功して居る所もある。春の間は、子供等が植付をしたり手入をし

たりする小さな花園が幾分この必要を満たし、永い冬の月の間も其植物は、子供が少しづつ手入をするので、動物の缺乏を補ふのである。

「若し子供が自分の花園を手入する事が出来なければ少なくとも二三の植物を植えた箱又は鉢を興へるが宜しい、夫には珍らしい繊弱なものや、八重咲のものでなくして、普通の植物で花や葉が澤山について、能く繁るものを植えておくがよい。幼児でも兒童でも、假令低い程度のものにして、他の生物を護り且其手入をさせれば、自然自分の生命を大事にし、之を能く養ふ事には容易く導く事を得る譯である。同時に植物の手入をする事は、甲蟲だの蝶だの、鳥等の如き植物に近いものを求めて之を観察することを喜ぶに至るものである。」(人の教育)

保母が唯單に裝飾の手段として保育室に植物を置いて部屋番か、又は保母自身が其手入をする様な時には、教育的施設としては、最も活きた部分を誤つて居るのである。上述の如く、吾が幼稚園に生きて居り生育して居る植物を利用する事は、唯子供に生を養ふ機會を興へる唯一の手段としてある。生を養ふの精神の發達は、一組の原始的道德の端緒を躐けるもので、注意、時を誤らぬ事、思索、親切、愛等の諸徳は、生きたもの又は生育するものゝ手入をする所から産み出されたるものである。併し乍ら、

是等の習慣の發達は保母が、子供の植物の手入を其細目の毎日の特色とするに非らざれば全く失敗に終るものである。保母は子供に植物の手入をさせると屹度水を溢すので、自分でやつた方がよほど樂だし、又子供に手入をさせる價値は一般に買被られて居るものと思ふ、と云ふさうである。モンテッソリ「女史の「兒童の家」の子供等が、室を通つて熱いスーブの這入つたスーブ入を運び、其友達の皿にスーブを入れてやる事に成功して居るのに、幼稚園の子供に室を通つて小さな水壺を運び、花に水をかけることを要求する位の事が望み過ぎた事であらうか。假りに水を少し許り、溢したとした所で、布切を興へておけば汚れた所を自分で拭ふだらうし、其うちに水を溢さない様な注意を覺えて來る事と思ふ。幼稚園では、家庭と同様、子供の將來に役に立つ習慣の始まりを作るのは、この様な毎日々々の定まつた小さい仕事をさせる事に由つてである。子供の躐に於て恣厯所を怠るやうな保母は忽厯言譯があるにせず、現代教育の或る要求に無智な者と云ふ事が出来る。



や、球根を植え付けさせる事は、子供に熱心と興味を以て這入らせる事が出来、そして直ちに忘れてしまふ様な事のない一つの教訓を含んで居るのである。夫から數週にして小供等は小人數づゝ暗い室に行つて球根に水を遣り、將來に起らんとせる生命の標シグナルを探し求め、土の中から小さい白い指を突き出して居るのを發見して大變に喜ぶのである。これを幼稚園に持つて歸るのは誠に喜ばしい日である。而して今からは毎朝子供等は約束の蕾の現出を熱心に待ち乍ら、各植物の要求に添ふ様に一生懸命に手入れして、是等の小さい植物の生長を注意深く看守るのである。遂に其中の一つの小さい植物が立派に花を開く時には、實に多くの子供等の環視の的となるのである。これこそ眞に子供等自身の植物である。是等の植物の繼續せる處には、春は首を延べて待つ所のよろこびである。

## ○家庭用兒童劇第二編 出づ

坪内博士の家庭用兒童劇第一編が、多くの好評の中に出版された事は前に紹介した事であつたが、最近同書の第二編が發行せられた。美しい装ひと理解ワカやすく述べられた内容、殊に幼兒の爲にとてつくられた數題、一編にもまして、よろこび迎へられる事と信じる。